

# 女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

千歳市立北陽小学校 設楽校長（前 石狩市立緑苑台小学校校長）



## Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

今、子どもたちと過ごす中で「直接子どもとふれ合う方が、自分には向いている」とお考えの先生方も多いと思いますが、視点を変えて全体を見つめ、組織としての働きかけで子どもたちを更に輝かせる管理職という選択も、非常にやりがいがあり、自分を磨くことができる一つの道です。

女性教職員・女性管理職が生き生きと働く環境づくりが、子どもたちの未来を育むために必要です。是非、皆さんの経験を生かし挑戦して欲しいと思います。

## Q 管理職を志した理由やきっかけは？

先輩方から「あなたが中堅、ベテランになった時は、周囲の先生方に引き継いでください」と言われ、それが心に残っていました。やがて担任外として学校運営に直接関わる業務を任されることになり、自分の工夫次第で取組が変わったり、取組の成果を職員と喜び合えた時に、視点が変わりました。

少年団活動をライフワークとしておりましたので、管理職になって学校経営をするという発想や視点はありませんでした。その気持ちが変わるきっかけになったのは、何年も管理職を勧めるお声をかけてくださった先輩の存在が大きかったと思います。少年団活動は後からでも可能ですが、管理職への道は時間が限られています。

## Q 管理職になるために必要だった支援は？

当時の校長先生からの指導や助言と、家族の理解です。管理職になると自宅から離れる可能性があり、夫と私の高齢の両親と同居しているため、時間をかけて家族に説明する必要がありましたが、日頃から、私の教育に携わる姿を見ていましたので、「私の思いを汲んだ方がいいだろう」と理解したのだと思います。

## Q 管理職になって気づいたことは？

教頭になって初めて「こんなに知らないことがあるんだ」「これまで、こんなに伸び伸びと働けたのも、管理職の皆さんが支えてきてくれたからなんだ」ということを感じました。

また、職員に対する見方も、協働して働いている職員の姿が凄く見えるようになり、より広く、深く見るように努めるようになりました。

## Q 管理職のやりがいや魅力は？

方針や重点について職員と共通理解を図り、具体策を練り、学校全体で実施して成果に結びついたことを実感した時や、職員と共に考え組織で対応してきたことで解決に至ったり、職員の力量が高まったと感じられる時は、共に喜ぶことができますので、やりがいが大きいですね。

## Q 後輩教職員へのメッセージは？

石狩管内には女性、男性を問わず、力量の高い教員がたくさんいます。その力を、管理職として学校経営に注ぐ後輩が増えることを願っていますし、生き生きと活躍している姿は、更に、その次の世代の育成に繋がっていくと考えています。

また、女性職員には、女性ならではの視点や経験があると思いますので、それを生かし、自信を持ってはつらつと活躍して欲しいです。

## Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

「職員に迷惑をかける」とか「同僚に申し訳ない」と気兼ねし過ぎないで欲しいですし、親の介護も同じですが「お互い様の精神で、この時期を乗り越えていきましょう」と伝えたいと思っています。そして、休暇を取りやすい職場に環境を整えていくことが、管理職の仕事だと思います。

次ページから  
インタビューの全文を  
掲載しております！  
是非御覧ください！

### 1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

初任時代から多くの先輩にお世話になってきましたが、「あなたが中堅、ベテランになった時は、周囲の先生方に引き継いでください」ということを何人もの方から言われ、それがずっと心に残っていました。

やがて自分も中堅教員となり、学級担任としてだけではなく、担任外として学校運営に直接関わる業務を任されることになりましたが、自分の工夫次第で取組が変わったり、児童の成長や変容を見ることができたりした時や、取組の成果を職員と喜び合えた時に、「このような関わり方もあるんだな」と感じるようになりましたし、視点が変わりました。

ただ、当時の私は、少年団活動をずっと続けライフワークとしておりましたので、管理職になって学校経営をするという発想や視点は、まったくありませんでした。

その気持ちが変わるきっかけになったのは、何年も管理職を勤めるお声をかけてくださった先輩の存在が大きかったと思います。少年団活動は後からでも可能ですが、管理職への道は時間が限られています。

### 2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

管理職を目指すにあたり、当時の校長先生が様々な指導や助言をくださったことは、とても有り難かったです。

そして、家族の理解です。

私の家族は、教員をしている夫(当時は管理職)と(当時)高校生の娘、同居している夫と私の両方の両親4名ですが、管理職になると自宅から離れる可能性がありますので、時間をかけて家族に説明する必要性がありました。

娘は、私の働き方をずっと見てきたこともあり「わかったよ」と理解を示し、自分のお弁当作りなど、家事に協力をしてくれました。高齢である4人の両親を説得するためには時間を要しましたが、日頃から、私の教育に携わる姿を見ていましたので、「私の思いを汲んだ方がいいだろう」と理解したのだと思います。このような家族の理解と協力で、感謝しています。

### 3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

教頭になるまでに担任外も経験し、管理職ともかなり連携を取って仕事をしてきたつもりでしたが、教頭になって初めて「こんなに知らないことがあるんだ」「これまで、こんなに伸び伸びと働けたのも、管理職の皆さんが支えてくれたからなんだ」ということを感じました。

また、職員に対する見方も変わりました。

学習指導や生徒指導が優れている先生の他に、知らない所で人のカバーをしている職員や、協働して働いている職員の姿が凄く見えるようになり、見えない所でも、学校のために力を尽くしている職員がたくさんいることを、より広く、深く見るように努めるようになりました。

そうすると、職員への声かけも変わってきます。

職員の日々の頑張りをよく見て声をかけることにより、職員のモチベーションも上がると思いますし、お互いの信頼関係も高まると思います。

### 4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

示した方針や重点について職員と共通理解を図り、具体策を練り、学校全体で実施したことが、直接、児童の成長や地域とのふれ合いなどについて、成果に結びついたことを実感した時や、課題があったとしても、職員と共に考え組織で対応してきたことで解決に至ったり、職員の力量が高まったと感じられる時は、共に喜ぶことができますので、やりがい大きいですね。

また、保護者や地域の方々と、子どもたちや地域のために一緒に汗を流したり、感動を共有し合えたり、感謝の気持ちをいただいた時は、管理職で良かったなと思います。

#### 5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

石狩管内には女性、男性を問わず、力量の高い教員がたくさんいます。その力を、管理職として学校経営に注ぐ後輩が増えることを願っていますし、生き生きと活躍している姿は、更に、その次の世代の育成に繋がっていくと考えています。

誰かがやらなくてはならないことを、「他の人がやってくれるだろう」とか「自分じゃなくても」という考えではなくて、「これまで積み上げてきた経験を、全体のために生かそう」と考えて、是非、管理職に挑戦して欲しいと思っています。

また、女性職員には、女性ならではの視点や経験もあると思いますので、それを生かし、自信を持ってはつらつと活躍して欲しいです。ロールモデルになる先輩との出会いは、きっとその後の教員人生に、プラスの影響を与えていると思いますね。

#### 6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

子育て期の職員に対しては、「ライフサイクルの中で、子育ての時期がある」ということを踏まえて、必要以上に「職員に迷惑をかける」とか「同僚に申し訳ない」などと気兼ねし過ぎないで欲しいですし、親の介護も同じですが、「お互い様の精神で、この時期を乗り越えていきましょう」と伝えたいと思っています。

子育てをしていると、病気などで突然休みを取らなければならない時や、早めに帰宅することがありますので、休暇を取りやすい職場に環境を整えていくことが、管理職の仕事だと思っています。

#### 7・ご自身が子育てをしている時に、管理職から、どのようなサポートが支えになりましたか？

私も子育て中に、子どもが急に熱を出したり、幼稚園の年少の時は一時的に登園拒否をしたことがあり、その時は出口のないトンネルの中に入った様な気持ちになりましたが、その時、管理職の先生から「学校のことは心配しなくても大丈夫。母親はあなた一人なのだから、子どもの側にいてあげなさい！」と声をかけていただいたので、気持ちがとても楽になりました。

実際に休暇を取るか否かは別にして、そのような声をかけていただくことで、随分、気持ちが違うと思いますので、本当に有り難かったです。

#### 8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

今、子どもたちと過ごす中で「直接子どもとふれ合う方が、自分には向いている」とお考えの先生方も多いと思いますが、視点を変えて全体を見つめ、組織としての働きかけで子どもたちを更に輝かせる管理職という選択も、非常にやりがいがあり、自分を磨くことができる一つの道です。

女性教職員・女性管理職が生き生きと働く環境づくりが、子どもたちの未来を育むために必要です。是非、皆さんの経験を生かし挑戦して欲しいと思います。

[インタビュー実施月:令和4年3月]

**インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。**